

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 社会福祉法人 さぽうとにじゅういち

1 事業の趣旨・目的

1 事業の趣旨・目的

文化審議会国語分科会が公表している「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」を実際の授業に取り入れた日本語指導を実践する。外国出身者が、日常生活において必要な最低限の生活上の行為を日本語で行えるようになることを目指す。

また、実践の記録を一般に公開することにより、より実践的で有用な生活者向け日本語指導の検討材料を提供する。

さらに、授業実施にあたって作成した視聴覚教材等の一部を一般に公開し、他の日本語教室でも自由に利用できる素材として提供する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
8月29日 月曜日 15:30～ 19:30	難民を助ける会 会議スペース	矢崎理恵 田中美穂子 中村陽子 福田泉	①コースの開講条件 ②定住外国人の言語生活 ③「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」の活用法	受講者募集の条件、外国人にとっての「おしゃべり」、教材に写真を用いること、「標準的なカリキュラム案」の「行為の事例」の中から優先して扱う事項について検討した。
9月15日 木曜日 14:00～ 17:30	難民を助ける会 会議スペース	矢崎理恵 荒川宣子 田中美穂子 中村陽子 福田泉	①前回の運営委員会の内容確認 ②「授業計画シート」の共有 ③(01)「医療」の授業内容の検討	受講対象者、「おしゃべり」、「標準的なカリキュラム案」の意図、授業の大まかな流れについて具体的に提案された「授業案」をもとに検討した。

9月29日 木曜日 9:30～ 12:30	難民を助ける会 会議スペース	矢崎理恵 荒川宣子 田中美穂子 中村陽子 福田泉	・各ユニットの授業内容	各担当者から提供された授業案をもとに、コース前半で扱うユニットの授業内容を検討した。
10月7日 金曜日 11:30～ 15:00	難民を助ける会 会議スペース	矢崎理恵 荒川宣子 田中美穂子 中村陽子 福田泉	①コース全体の内容 ②各ユニットの授業内容	各担当者から提供された授業案をもとに、準備すべき教材等の詳細を含め、授業内容を検討した。また、ビデオ撮影の活動を行う目的について話し合った。
10月18日 火曜日 17:15～ 21:00	難民を助ける会 会議スペース	矢崎理恵 荒川宣子 田中美穂子 中村陽子 福田泉	①受講登録者について共有 ②コース全体、各ユニットの内容	授業の内容、第1回目に行う開講式について検討した。
10月28日 金曜日 13:00～ 15:30	難民を助ける会 会議スペース	矢崎理恵 荒川宣子 田中美穂子 中村陽子 福田泉	・コース開講前の確認	授業開始に向けて、教務事項、作業内容について確認した。
1月31日 火曜日 12:50～ 15:30	難民を助ける会 会議スペース	高橋敬子 矢崎理恵 荒川宣子 田中美穂子 中村陽子	・コースの振り返り(受講者のアンケート結果、教授者・講義補助者の振り返りシートをもとに)	下記の項目について話し合いを行った。 ・クラスの開講時間・頻度 ・スキット作成・ビデオ撮影 ・受講者の変化 ・講師の変化 ・大きな目標として何があったらいいのか ・おしゃべり ・日本語能力の差

【写真】



3 日本語教室の開催について

① 講座名

「定住外国人のための 60 時間参加型日本語講座」

② 開催場所

特定非営利活動法人 難民を助ける会 会議スペース

③ 学習目標

文化審議会国語分科会が公表している「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案を活用して、外国出身者が日常生活を営むにあたり必要となる最低限の行為を日本語で行えるようになること、またその姿勢をもてるようになることを目指す。

④ 使用した教材・リソース

- ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案
(文化審議会国語分科会)
- ・当法人作成の写真・絵カード・プリント教材
- ・ヘルプカード(東京都生活文化スポーツ局)
- ・携帯用絵教材(「みんなの日本語初級Ⅰ」動詞絵カード)
- ・さぼうと21オリジナル動詞活用音声教材(丁寧体・普通体)

⑤ 受講者の募集方法

- ・広報用チラシの作成、さぼうと21学習支援室内掲示(*チラシ添付)
- ・広報用チラシの送付(9月30日都内日本語教室関係者等10名)
- ・広報用チラシの手配り(10月1日・2日のグローバルフェスタにて)
- ・ホームページ上での案内
(9月26日当法人ホームページ、9月30日「しながわすまいるネット」に公開)
- ・メーリングリストでの案内
(10月2日「東京日本語ボランティアネットワーク」、10月14日「なんみんフォーラム」)

⑥ 受講者の総数 13 人

(出身・国籍別内訳 インド8人, ミャンマー2人, コロンビア2人, ペルー1人)

⑦ 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

授業は「標準的カリキュラム案」をもとに行った。

初級レベルの受講者が日本での生活を円滑に送るために優先度が高いと考えられる事項を「標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例」より6項目選択し、1項目につき、4日から6日をかけて授業を行った。選択した6項目は以下の通りである。

①人と付き合う②住民としての手続き・住民としてのマナー③電車、バス・徒歩移動④物品購入・サービス⑤医療機関・薬の利用⑥事故・災害に備える

■1日の授業の流れは以下の通りである。

1 基礎語彙

2 基礎動詞(さぼうと21作成の動詞活用音声教材(丁寧体・普通体)を利用)

3 選択事項関連(4日－6日で各事項関連の授業を終了させる)

2日－4日間:実際の体験や教授者・学習者間の対話を通じて各項目のテーマに関連した場面で必要となる語彙や表現、知識や情報の学習

1日:スキットのスクリプト作成。グループやペアに分かれて学習事項に関連したスクリプトを作成し、セリフだけでなく身振り・動きを練習する。

1日:ビデオ撮影。ビデオ撮影を行い、撮影したスキットを受講者全員で共有し、学びを深める。

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
(1)	11月1日 8時45分－11時	2時間	12人	●インド・ヒンディ語:6人 ●インド・ティグル語:2人 ●ミャンマー:ビルマ語:1人 ●コロンビア:スペイン語:2人 ●ペルー:スペイン語:1人	教授者 1人 補助者 1人	■VII-14(31)人と付き合う①
(2)	11月4日 8時45分－11時	2時間	13人	●インド・ヒンディ語:6人 ●インド・ティグル語:2人 ●ミャンマー:ビルマ語:2人 ●コロンビア:スペイン語:2人 ●ペルー:スペイン語:1人	教授者 1人 補助者 1人	■VII-14(31)人と付き合う②

(3)	11月7日 8時45分 －11時	2 時 間	12 人	●インド・ヒンディ語：6人 ●インド・ティグル語：2人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：2人 ●ペルー：スペイン語：0人	教授者 1人 補助者 1人	■VII-14 (31) スクリプト作成
(4)	11月8日 8時45分 －11時	2 時 間	10 人	●インド・ヒンディ語：5人 ●インド・ティグル語：1人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：2人 ●ペルー：スペイン語：0人	教授者 1人 補助者 1人	■VII-14 (31) ビデオ撮影
(5)	11月14日 8時45分 －11時	2 時 間	13 人	●インド・ヒンディ語：6人 ●インド・ティグル語：2人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：2人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■VIII-15 (33) 住民 としての手続きを する①
(6)	11月15日 8時45分 －11時	2 時 間	10 人	●インド・ヒンディ語：4人 ●インド・ティグル語：1人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：2人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■VIII-15 (33) 住民 としての手続きを する②
(7)	11月18日 8時45分 －11時	2 時 間	10 人	●インド・ヒンディ語：6人 ●インド・ティグル語：2人 ●ミャンマー：ビルマ語：1人 ●コロンビア：スペイン語：0人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人 (通訳 1人)	区役所訪問・見学
(8)	11月21日 8時45分 －11時	2 時 間	10 人	●インド・ヒンディ語：4人 ●インド・ティグル語：2人 ●ミャンマー：ビルマ語：1人 ●コロンビア：スペイン語：2人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■VIII-15 (34) 住民 としてのマナーを 守る①
(9)	11月22日 8時45分 －11時	2 時 間	11 人	●インド・ヒンディ語：4人 ●インド・ティグル語：2人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：2人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■VIII-15 (33) (34) スクリプト作成

(10)	11月25日 8時45分 －11時	2 時 間	10 人	●インド・ヒンディ語：4人 ●インド・ティグル語：2人 ●ミャンマー：ビルマ語：1人 ●コロンビア：スペイン語：2人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■Ⅷ-15 (33) (34) ビデオ撮影
(11)	11月28日 8時45分 －11時	2 時 間	9 人	●インド・ヒンディ語：3人 ●インド・ティグル語：2人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：1人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■Ⅳ-07 (10) 電車、 バス等を利用する ①
(12)	11月29日 8時45分 －11時	2 時 間	8 人	●インド・ヒンディ語：3人 ●インド・ティグル語：2人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：0人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■Ⅳ-07 (10) 電車、 バス等を利用する ②
(13)	12月2日 8時45分 －11時	2 時 間	9 人	●インド・ヒンディ語：3人 ●インド・ティグル語：1人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：2人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■Ⅳ-07 (10) 電車、 バス等を利用する ③
(14)	12月5日 8時45分 －11時	2 時 間	8 人	●インド・ヒンディ語：4人 ●インド・ティグル語：0人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：1人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■Ⅳ-08 (12) 徒歩 で移動する①
(15)	12月6日 8時45分 －11時	2 時 間	10 人	●インド・ヒンディ語：4人 ●インド・ティグル語：2人 ●ミャンマー：ビルマ語：1人 ●コロンビア：スペイン語：2人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■Ⅳ-07 (10)・Ⅳ-08 (12) スクリプト作成
(16)	12月9日 8時45分 －11時	2 時 間	9 人	●インド・ヒンディ語：4人 ●インド・ティグル語：0人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：2人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人 (通訳 1人)	■Ⅳ-07 (10)・Ⅳ-08 (12) ビデオ撮影

(17)	12月12日 8時45分 －11時	2 時 間	7 人	●インド・ヒンディ語：2人 ●インド・ティグル語：1人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：1人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■Ⅲ-05（08）物品 購入・サービスを依 頼する①
(18)	12月13日 8時45分 －11時	2 時 間	6 人	●インド・ヒンディ語：2人 ●インド・ティグル語：1人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：0人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■Ⅲ-05（08）物品 購入・サービスを依 頼する②
(19)	12月16日 8時45分 －11時	2 時 間	7 人	●インド・ヒンディ語：2人 ●インド・ティグル語：2人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：0人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■Ⅲ-05（08）物品 購入・サービスを依 頼する③
(20)	12月19日 8時45分 －11時	2 時 間	5 人	●インド・ヒンディ語：1人 ●インド・ティグル語：1人 ●ミャンマー：ビルマ語：1人 ●コロンビア：スペイン語：1人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■Ⅲ-05（08） スクリプト作成
(21)	8時45分 －11時	2 時 間	7 人	●インド・ヒンディ語：2人 ●インド・ティグル語：1人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：1人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■Ⅲ-05（08） ビデオ撮影
(22)	1月6日 8時45分 －11時	2 時 間	7 人	●インド・ヒンディ語：3人 ●インド・ティグル語：1人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：0人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■ビデオ振り返り 会
(23)	1月10日 8時45分 －11時	2 時 間	7 人	●インド・ヒンディ語：3人 ●インド・ティグル語：1人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：0人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■Ⅰ-01（01）医療 機関で治療を受け る①
(24)	1月13日	2	5	●インド・ヒンディ語：2人	教授者	■Ⅰ-01（01）医療

	8時45分 －11時	時間	人	●インド・ティグル語：0人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：0人 ●ペルー：スペイン語：1人	1人 補助者 1人	機関で治療を受ける②
(25)	1月16日 8時45分 －11時	2時間	6人	●インド・ヒンディ語：3人 ●インド・ティグル語：0人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：0人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■ I-01 (01) 医療 機関で治療を受ける③
(26)	1月20日 8時45分 －11時	2時間	5人	●インド・ヒンディ語：2人 ●インド・ティグル語：0人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：0人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■ I-01 (02) 薬を 利用する①
(27)	1月23日 8時45分 －11時	2時間	7人	●インド・ヒンディ語：2人 ●インド・ティグル語：1人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：1人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■ I-01 (01)・01 (02) スクリプト作成
(28)	1月24日 8時45分 －11時	2時間	8人	●インド・ヒンディ語：3人 ●インド・ティグル語：1人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：1人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■ I-01 (01)・01 (02) ビデオ撮影
(29)	1月27日 8時45分 －11時	2時間	7人	●インド・ヒンディ語：3人 ●インド・ティグル語：0人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：1人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人 (通訳 1人)	■ I-02 (04) 事故 に備え対応する①
(30)	1月31日 8時45分 －11時	2時間	8人	●インド・ヒンディ語：3人 ●インド・ティグル語：1人 ●ミャンマー：ビルマ語：2人 ●コロンビア：スペイン語：1人 ●ペルー：スペイン語：1人	教授者 1人 補助者 1人	■ I-02 (05) 災害 に備え対応する

⑨ 特徴的な授業風景(担当教授者による授業記録をもとに記す)

【11月18日(金):区役所訪問・見学】

1. 区からの情報提供 9:00～9:20

—新規登録者(転入者)用資料の紹介

* 品川区外国語版生活情報誌 * 外国人登録ガイドブック * 品川区地図

* ごみの出し方説明書 * 転入、転居をした方への案内

—品川区のHPの紹介

—国民健康保険の紹介

2. 区役所関連主要場所を2グループに分かれて見学 9:25～9:55

* 品川区国際友好協会(多言語資料コーナー)

* 区民相談室、区政資料コーナー(多言語資料コーナー)

* 外国人登録係

3. 防災体験コーナー(防災シアターにて) 10:00～10:45

* 初期消火訓練 水入り消火器を使つての消火訓練体験

* 防災に関するミニ映画(15分)鑑賞

＜所感＞

区として外国人にとって必要不可欠の資料や説明書が多言語で整っており、また、多言語対応の相談システムを設けていることなどを知り、受講者にとっても引率者にとっても有意義な学習になった。これをきっかけにして、受講者が各自の居住地の区役所本庁を訪問し、必要情報の入手まで活動を広げられれば、さらに日常生活に有意義な結果が得られるだろう。今後の課題としたい。



【12月5日(月):「徒歩移動」の授業】

1. 基礎動詞

2. 基礎語彙

3. 今日の課題「徒歩移動」の説明とグループ分け

グループ①大円寺行き、グループ②大鳥神社行き

4. Google map で目的地の行き方を調べる。

5. 事前に印刷しておいた「Google map の地図」、「目的地にある知らない物等を日本語や母語でメモしたり絵を描いたりするシート」を全員に配布して、出発。
6. 時々立ち止まっては、皆で地図を見たり、人に尋ねたりしながら、比較的スムーズに目的地にたどりついた。
7. シートに記入しながら、目的地にあるものについてやりとり。

<所感>

今後も、しっかりした地図さえあれば、多少複雑な道のりであっても、目的地までたどり着けそうな印象をもった。今回は寺や神社に行くだけではなく、少々、日本文化にも触れてもらったが、“日本に暮らす”受講者には、有意義だった。AさんがGoogle mapの使い方がわかったと喜んでいて。



【12月20日(火):ビデオ撮影】

1. 基礎動詞

これまで習った動詞約10個のジェスチャーゲームをしてから、本日の基礎動詞を導入。

2. 基礎語彙

3. ビデオ撮影

- ・グループのメンバー、タイトルの確認。
- ・撮影順を決める
- ・グループで練習
- ・撮影

* 受講者全員で撮影風景を見ることをしなかった。他のグループ撮影時は、練習、または、スクリプトをひらがな化するタスクを課した。撮影前にリハーサルを行い、講師・補助者からアドバイスを入れる。撮影後は、すぐにグループメンバー全員で録画をチェック、希望に応じて撮り直しを行った。

4. ビデオ共有(10:30~11:00)

- ・ビデオを見る
- ・ビデオ内容について質疑応答
- ・他のグループのビデオを見て、よかったところを考えて発表する
(小道具の準備がいい、店員の言葉が丁寧である等のコメントが出る。)
- ・新しい言葉を確認し、「わたしのことばリスト」に記入

<所感>

ビデオ撮影直後にメンバーでビデオを覗き込みながら、録画を確認した。その際、「先生、いいですか」と尋ねる学習者が何人かいた。教師からは、逆に「自分たちはどう思うのか」、

「撮り直すかどうかは自分たちで決める」と返した。スクリプトは既に確認済みであり、リハーサルで修正すべき点はアドバイスをしただけのため、ここから先の自分たちの活動は、教師の評価に頼るのではなく、自分たちで内省し、評価すべきだと考えたからである。このようにしているうちに、一部の学習者から、「ここを間違えてしまったからもう一度撮り直そう」「ここはこの言い方でよかったのか」「もう一度録画のこの部分が見たい」という声があがってきていた。

ビデオ共有(今回はここを授業の主たる活動と位置付けた)では、他のグループの録画を見て、よかった点を考えるタスクを課した。また、新しい言葉を探し、リストに記入するというタスクを課し、意識的にビデオを見るようにした。ここで、新しい文型(例:～たい)・言い回し(例:行きましょう)・語彙(例:にんにく、みなみ)を確認したり、動詞の辞書形を考えたりする機会が生まれた。(例:はいてみてもいいですか、の動詞は「はいる」ではなく「はく」)



4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

■本講座の学習目標

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」を実際の授業に取り入れた日本語指導を実践するにあたり、学習目標として以下を設定した。

●外国出身者が、日常生活を営むに必要な最低限の生活上の行為を日本語で行えるようになる。またその姿勢をもてるようになる。

講座終了まで通学した受講者8名を対象に行ったアンケート調査と教授者、補助者、コーディネーターの観察から、学習目標は十分に達成されたと判断する。

受講者8名は、全員が非常に高く授業の内容を評価している。カリキュラム案から選択した「人と付き合う」「電車やバスを利用する」などの事項について、そこで必要となる日本語の語彙や表現を学んだことが肯定的評価の大きな要因であろうが、日本の社会・文化的情報など未知の事柄について理解ができたことや、同じような立場にある仲間との対話な

どから安心感が生まれ、日本社会で生活することや日本語を使うことへの自信をもてるようになったことも肯定的評価につながっていると思われる。

以下に示すのは、アンケート調査の、回答からの抜粋である。自由記述を中心とした調査を行ったため、数値として明示することは難しいが、自由に記された文言は多くを示唆するものである。

■受講者のアンケート回答から(抜粋)

【質問】今回の日本語クラスは、あなたの日本での生活に役に立ちましたか。

受講する前と今とを比べて、具体的に書いてください。

【回答】(母語での回答は、日本語に翻訳)

全ての受講者から「日本語が使えるようになった」という回答が寄せられた。

- ・ 外に出る時、とても役に立ちます。日本語を理解できて、とても嬉しいです。
- ・ 私たちが得た知識は、私にとってとても重要でした。私は、日本でのコミュニケーションにたくさん問題がありました。でも、今、私は、日本の人々と話すことができ、買い物ができ、それはここで生きやすくするためにとても役に立っています。
- ・ コースをとる前は、私は、私の会話の中で日本語の単語を使いませんでした。でも、今は、日常生活で日本語の単語をたくさん使います。(同様他1名)
- ・ 以前、いつも誰かに頼ってお願いしていました。このクラスを受講してから、自分自身を頼れるようになってきました。自分でできるようになって、以前とは大変違ってきました。

【質問】今回の日本語クラスを受講して、あなたの日本語力は伸びましたか。受講する前と今とを比べて、具体的に教えてください。

【回答】(母語での回答は、日本語に翻訳)

受講者全員から、受講前後を比べて「日本語力が伸びた」という回答が寄せられた。

- ・ はい、以前は理解できなかったことが理解できるようになって、良かったです。
- ・ はい、日本語を学べてとても嬉しかったですし、もっと学びたいです。ここで生活するためのスキルを知り、高めることは、私たちにとってとても重要です。
- ・ もちろん。テレビも前よりわかるようになりました。(原文のまま)
- ・ 知らない言葉、使う方法等がわかってきました。

【質問】今回のクラスを受講して、あなた自身に何か変化はありましたか。

受講する前と今とを比べて、具体的に書いてください。

【回答】(母語での回答は、日本語に翻訳)

受講前後を比べて、「一人で出かけられるようになった」「楽しく過ごせるようになった」など、日本で生活することへの「自信」と「前向きな姿勢」の感じられる回答が全員から寄せられた。

- ・ 今は、その場所や外での話し方についてアイデアがあるので、一人でどこでも簡単に行くことができます。今、私は、日本の一部だと感じます。
- ・ 受講する前は、一人でどこへも行けませんでした。受講してから、一人でも行けるようになりました。病院、買い物、郵便局、外出等、自分がしたいことが一人でできるので、たくさんの変化がありました。
- ・ はい、もっと日本でたのしくするようになりました。日本人のかんがえかた もっとわかるようになりました。(原文のまま)
- ・ はい、私の日本での生活レベルが変わりました。日本社会で人と話すとき、自信がもてるようになりました。

【質問】授業の中でスクリプト作成とビデオ撮影を行いました。

そのタスクは何かあなたのプラスになりましたか。

【回答】(母語での回答は、日本語に訳した。)

「よく分からない／プラスになった／とくにプラスにならなかった」の3つの中から選択する形式をとったところ、8名全員から「プラスになった」という回答が得られた。

「どんな点でプラスになったかを、具体的に書いてください。」に対して、以下のような記述が見られた。

- ・ とても勉強になりました。スクリプトを用意して、新しい単語を学びました。
- ・ 私は、ドラマからたくさん学びました。たくさんの新しい単語を学びました。それは、日本語を話すことに自信を持たせてくれました。
- ・ 受講したものを復習できます。もっと覚えられます。クラスの人、お互いに親しくなり、楽しくなりました。
- ・ 自分に自信がもてるようになりました。話せるようになってきたので、大変効果がありました。

② 学習者の習得状況

受講者の日本語力や日本在住歴に差はあるが、各人の努力により、受講を継続した者全員が、それぞれの日本語力を伸ばし、日本生活に関する知識や情報を習得していた。当初日本語力がゼロだった受講者は、本講座で学習した語彙や表現を用いながら、できる限り日本語で話そうとする場面が多く見られるようになった。日本語学習歴があった受講者は、これまで習得してきた文法や語彙を見直し、様々な場面の中でより適切な日本語を

使用することができるようになった。

また、授業に取り入れた「基礎動詞」「基礎語彙」は、個人差はあるものの、回を重ねるごとに反応が良くなり、「使える動詞」「使える語彙」となっていた。

「氏名・住所の記入」も日々の授業の中に何回か取り入れられ、その結果、ほぼ全員が手本を見なくても書けるようになった。

何より大きな成果は、受講者一人一人が自身の日本語力や自分の日本語学習について客観的にとらえることができるようになり、今後の学習について具体的な計画が立てられるようになった点かもしれない。「自己の学習を管理する力」を習得したと言える。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

今回の日本語教室は、「標準的なカリキュラム案」の活用、教科書を使用しない、オリジナルを多く含む生活場面の写真(A4 サイズ)の活用、スクリプト作成・ビデオ撮影、体験活動等、独自のコースデザインにより運営された。

本教室に通学した受講者は、全員主婦という点で共通していたのだが、家庭以外の場所に身をおき、他国出身の受講者と一緒に日本語を学ぶ期間を過ごしたことで、一人一人が実生活においても自信をもって日本語によるやりとりをしたり行動したりできるようになった。それは受講者のアンケート回答でも示されていることであるが、担当講師や講義補助者から見ても、一人一人の表情や言動が日を追うごとに生き生きとしたものになっていると感じた。外国出身者が、限られた活動圏に留まることなく、期待される行為を自発的に行えるようになる、自分自身の欲求や希望に従って行動できる、そのきっかけを提供できたことが、本教室の大きな成果である。

また一方で、本教室の設置運営という新たな試みにチャレンジした運営者側は、ボランティア教室での「標準的なカリキュラム案」の活用や「生活者としての外国人」に対する日本語教育のあり方について、日々話し合いを続け、授業を行い、報告をし、共に考え合うという繰り返しのなかから、新たな見解や問題意識をもつことができた。この点も大きな成果である。以下に具体的に記す。

長年日本語指導の拠り所としてきた「文型積み上げ式」ではない授業運営とは「具体的には」どのようなものなのか、「標準的なカリキュラム案」が期待する生活者としての外国人の姿は、日常生活において日本人に迷惑をかけず、単に日本社会の中で何かしらの行為ができる、手間のかからない外国人なのか、「行為を完了する」ことができれば、それで受講者の目標は達成できたということなのか、そのような疑問を抱きつつ、日々の授業に挑戦していたように思う。

全ての授業を終えて、事業全体を振り返ってみると、その疑問に対し、一つの回答は受講者から与えられたとも言える。先に記したとおり、受講者には日々変化が見られ、生き生

きとした表情がみられるようになっていった。それは、単に「単語をいくつか覚えた」「一人で日本語を使って買い物ができた」という目標達成への「満足感」だけではなく、「日本語を使って」「行為が達成できた」ことによって、次の行動に恐れず進むことのできる「自信」や「勇気」をもてたことによるものではないかと思える。その「行動する勇気や自信をもつこと」が「生活者としての外国人」である彼らの日々の生活、共に暮らす日本人の生活をより心地よく、豊かなものにしようものだと実感している。「標準的なカリキュラム案」の目的とするところは「行為」ではなく「行動」であると思うに至っている。

では彼らはなぜ「日本語を使ってみよう」「何かやってみよう」と思えたのか。それを考えると、「教え込むことに徹しない」日本語教室の存在は非常に大きな意味があったと思える。仮にそこで、従来の多くの日本語教育の場でみられるような「教師」対「学生」、「教える人」対「教えられる人」という構図で授業が進められていたら、それは彼らの教室外での行動には結びつかず、「日本語は難しい」という意識だけをもつようになってしまったかもしれない。語学学習が苦手な受講者は、日本語が「できない」ことで自信を失っていったかもしれない。ある行為を達成するという短期的な目標の中で、他の受講者や講師、アシスタントと共に考えたり話し合ったりといった「やりとり」を重ね、時には気まずい人間関係が生じたり、さらには歩み寄りの努力をしたりしたことが、受講者の教室外での日本語使用、行為の達成を促したのではないだろうか。

そう考えて、改めて「標準的なカリキュラム案」を見直した時、より重きがおかれるべきは、「行為の達成」ではなく、「対話」や「相互理解」であったのだと気付かされた。ところが、実際に私たちもそうであったように、どうしても多くのページが割かれている「行為」にばかり目が行ってしまい、「対話」や「相互理解」の重要性が見落とされがちである。各日本語教室において、様々な生活上の行為を達成できるようになるための「言葉」や「表現」を教え込むことに重きがおかれてしまうのではないか、という懸念がある。

日本語教室において、より有効に「標準的なカリキュラム案」が理解され、活用されるためには、日本語教室内で改めて日本語学習のあり方を見直したり、日本語教室相互に情報交換をしたりする必要がある。また、「標準的なカリキュラム案」作成者側が、日本語教室に対して、より積極的にその理念や考え方、「具体的な」授業の進め方を示していく必要も感じる。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回、授業の一環として品川区役所を訪問し、そこで見学や体験ができたことは大きな意義があった。受講者は、区役所を身近なものと感じることができた。また、当団体と品川区の間で「顔の見える」コミュニケーションが可能となった。品川区も日本語教室の受講者の訪問を「NPO との連携」の成果としてホームページで紹介するなどしてくださっている。その後、品川区の呼びかけで、区内の国際交流協会、大学の国際交流担当者、NPO 関係者による集まりがもたれる機会が設けられたが、「顔の見える」つながりが強化されていると感じる。

ずる。

⑤ 改善点, 今後の課題について

a. 現状

当団体の学習支援室では、毎週土曜日に、個人指導を中心に 50 名程度の外国出身者が、ボランティアと日本語の学習に励んでいる。

受講者のニーズが優先されるので、その授業の形態は様々であるが、ボランティアの日本語教授経験や日本語教育の研修経験、翻訳が用意されている点から、初級では『みんなの日本語』を用いて授業を行うケースが多い。

当団体の学習支援室においては、日本語教師を本業としていたり、日本語教師養成講座を終えていたりするボランティアも多い。それだけに「文法授業」を優先しがちな面もある。

b. 今後の課題

週に 1 回という限られた時間の中で、いかに受講者のニーズや期待にそった学習を進めていくかを常に模索している。

今回の日本語教室の経験から、「教室での学びから日本語使用についての「自信」をもつ」⇒「その自信に後押しされて実際に生活の中で日本語を使ってみる」⇒「その結果日常生活の何かしらの行為が「達成」できる」⇒「さらに自信をもち、多くを学びたいと思う」⇒「教室の内外で学ぶ」⇒「新たな行為を達成したいと感ずる」という連鎖が、非常に有効に働くことを実感し、また、「日本語学習」「日本語教室」「生活の場」が切り離されることなく相互に作用しあう必要性を感じた。

実際に今回の日本語クラス受講者の一人は、これまで生活上の用事のほとんどを夫任せにしていたが、自ら電話で欠席の連絡をしてくるようになり、それまで黙ってこなしていた様々な行為に少しずつ日本語が重なるようになった。その後、自分の家の近くに日本語教室を探している。

また、別の受講者は、これまで黙って買い物をしていた食料品店で日本語を使うようになり、家の近所に日本語で話す相手ができる。その後、もともと好きだったギターのレッスンに通いたいと思うようになり、日本語教室でその情報を求め、その後は「自分で見学に行ってみる」と嬉々として語っていた。

当団体の学習支援室においても、まずは、受講者のニーズや学習スタイル、学習目標、学習目的を改めて確認し、外国出身者にとっても日本人ボランティアにとっても心地良い日本語学習の進め方を検討していくこととしたい。「標準的なカリキュラム案」が有効であると判断した場合は、今回の実践で使用した教材なども有効活用していきたい。

また、どのような形で授業をするかに関わらず、日本語教室の授業は、参加者全員で作り上げているものであり、外国出身者も日本人も互いに話し合い、協力し合い、

学習を進めていくものなのではないかと考える。そのためにも、いかに「傾聴力」「対話力」を備えていけるかが一つの課題である。

また、当団体には、「日常生活の行為は十分達成できている人」も多く、その方々にとって有意義な授業の内容や方法も検討していく必要がある。

c. 今後の活動予定, 展望

週に1回の学習支援室の内容をさらに充実させていきたい。

初級前半、初級後半のグループ授業の定期的開催とその内容の充実化、漢字クラスの定期的開催と教材の充実化、中上級レベルの受講者に対しては、「新聞から学ぶ日本語」「マナーから学ぶ日本語」「求職活動から学ぶ日本語」「歴史ドラマから学ぶ日本語」「ブログ作成から学ぶ日本語」「ニュースから学ぶ日本語」など、関心事を優先させた日本語学習の取り組みを検討していきたい。

しかしながら、来日して日の浅い外国出身者にとっては「集中日本語教育」が必須であり、また学習効果も高いであろうことから、何かしらの行政側からの支援により、定期的に質の良い初級日本語教室が開催されることを切望する。